

2015住民コミュニケーションBIM（暫定版）

2009年にスタートした仮想3次元設計コンペBLJ（Build Live Japan）大会は、2015年の節目の年に、現実の住民にコンペの模様をお見せしコミュニケーションするという新たな手法にチャレンジする予定。



おおいた風景写真集から引用、修正
<http://www.visit-oita.jp/album>

仮想コンペの課題敷地は、大分県杵築市（人口約3万人）の城下町地区に設定する。高低差に富んだ歴史的景観をもつ商店街には、現在は空き地が目立つ。この空き地において、地元の志ある者達がまちづくり活動の一環として、各種のイベントを行い、賑わいの創出にとどまらず将来の住みよいまちの形成に向けて、住民との対話を重ねている。

BLJ2015参加チームには、この複数の空き地の中からいくつかを選択し、将来の都市のイメージ図を3次元で描き出して欲しい。

地域の求める機能をどこに配置すると効果的なのか、現実に事業の予定がない空き地であるからこそ、ベストなまちづくりの提案をすることができるはずである。ただし、地域に歓迎される優れた提案であれば、単なる仮想設計コンペにとどまらず、現実にその建築物の実現に向けた動きが始まる可能性があるのかもしれない。

このまちを訪れた観光客は、高台の屋敷と中心商店街を回遊する。例えば、建築物に高低をつなぐ公共の用に供する階段を設けることで、まちに新たな回遊性を提案し、観光客に変化に富んだ景観を提供することも考えられる。

また、高台には小学校があるので、子供や高齢者にも、どのような建築物なのか、部屋の内部も含めて3次元の

見え方をアピールすることができるだろう。雰囲気はどうか、使い勝手はどうか、建築の専門家とは違う観点からの意見を得ることは、参加チームにとって今後の糧になるであろう。

より柔軟に、より開かれたBLJ2015の詳細は、今後、段階的に情報提供するので、積極的な参加をお願いしたい。